



みさごたより

Espressivo Part 9

2021. 12. 1 (水)

文責：永野
No.17



薩摩川内市立里小学校

世界は広い 広い視野を持とう！

～みんなの知らない中学、高校の世界～

ばんがいへん
(番外編)



今日から12月^{しわす} 12月は、^{おおいそが}師走^{じき} といって先生方は大忙しの時期に入ります。みんなは、12月は冬休みがあつて^{よくじつ} もある。

今年の大みそかは「親のいうこときかねえ～のはおらんかあ～」と^{こわ}うでちょっぴり怖いけど、翌日は新年。お正月^{よくじつ} お年玉あ～



楽しいことがいっぱいですね。

さて、今日は、前2回の番外編です。

はつかいがいりょうこう お
初海外旅行で起こったふつうでは起こらない？

^{たいけん}体験を2回に分けてみんなには伝えました。では、9年前中学校で音楽教師(3年担任)だった私は、^{つた}中学生にどう伝えていたか？ 次の文章は、私が初めて海外に出たこの年の卒業文集に、書いて^{おく}贈ったものです。(中学生にむけてなので、内容がむずかしいです。そして^{きび}厳しい！ お家の人と読んでくださいね。)

甘い考えを捨てよ

永野 俊也

この〇〇市は、十年で二千人規模の人口が、進んでいく。この先、地域行事の維持が、漁業は、どうなっていくのか？

東シナ海の各国の共同漁業区域では、後継者が少なく、日本漁船は、隣国の大漁船にどんどん締め出されていく。人口は、膨張し、世界規模で見ると、人口は、豊かな農耕地の争奪戦を繰り広げている。

私がこの冬見てきた南の国々では、巨大な資本が村を丸ごと買い取る勢いがあつた。地元の人々を、大きな店が建ち、安売りをしかけた。その店をつぶし、独占してから値を上げる。これは、他の人々を潰すだけだろうか？

果たして、これは、他の人々を潰すだけだろうか？

一方、あなたたちと同年代の新興国の若者が、多数英語圏でバカンスを過ごしている。彼らは、多数的に、グローバル化の進む将来に備えているのだという。

先を見つめよ。視野を広げよ。

自らに問え。何を成すべきか。

自らの将来、切り開くのは自らの力だ。

生産力を失い、消費するばかりの国に転じ、甘んじてしまった国がどうなったか、歴史をしっかりと学べ。多くの答えがそこにはすでにある。オタク文化に埋没し、仮想現実の世界で一時の満足を得る将来など、私は望みたくない。私は、あなたたちの学びの力、前に進む力、信じている。よき二十年后を開いてほしい。

はじめての海外旅行で感じたことを、当時の中学生たちにすなおな気持ちで伝えようと思いました。

前のページの文章を贈った学校は、甌島と同じ鹿児島県の離島で、中学校です。
面積は、甌島の約4倍。人口は約7倍の島です（どこかわかりますか？）。



この島は、高校が2つあったので島立ちすることなく、中学卒業後、多くの生徒が島内の高校に通っていました。ですから島立ちは、高校卒業後の18歳だったんですね。

わぁ～ いいなぁ～ と思うかも知れません。ただ当時の状況は大変でした。

勉強しなくても高校には行ける♪ と変な勘違いをして、中学校で勉強しない生徒が多かったんです。すると、いざ高校へ行ってみると、高校は義務教育ではないので、甘くはありません。

テストで点数が取れなかったら上の学年にみんなと一緒に上がれなかったりする。すると簡単に高校をやめてしまう…。とうぜん中学校も落ち着いた雰囲気とは言えませんでした。ですから、かなり厳しい指導をしました。目の前の高校進学を甘く見ている中学生には、もっと先、高校卒業後の将来を問い、資料を作り現実を見せ、そして **学びをなめるな!** と迫ったんですね。

この年卒業した生徒たちは、私がこの島に行つて2年目の子供たちで、学校が変わるきっかけを多く作ってくれました。そしてその次の年の学年では、

勉強すれば伸びる能力があるのに、ゲームばかりして勉強しない…。そんな生徒の家には、夜、バイクの音が響くのです。一応？ 本人と親の許しを得て、晩ご飯食べ終わった頃、ヘルメット持ってお家に回収に行き、夜11時頃まで学校で勉強するその名も、**勉強し隊** というものが組織されました。するとどうでしょう？ 次の定期テストでその勉強し隊が大躍進をとげたのです。私もぼくも勉強し隊に入りたいです！ と申し出る生徒も出てきましたが、**甘えるな!** と、突き放し、勉強し隊は、1ヵ月ほどで解散しました。

誰のための学びか？ おまえたちは、人を頼らなければ勉強できない軟弱者か？

自ら学べ!

この学年は、5クラス164名。その後日々120分以上の家庭学習を継続するようになります。すると、中学卒業段階で、自分の高めた力をバネに県本土の高校へ進学するものが増え、地元高校に進学した生徒の中からも、超難関とよばれる東京大学に進学するものまであらわれました。勉強がすべてではありません。けれども、「貴重な時間を目先の楽しみにばかりに使って、将来の可能性をドブにすててどうする。あなたたちが生きる時代は、生やさしい時代ではない」次の時代へ、バトンをわたす者の使命としてこういう思いがあったことは確かです。

今日は番外編です。いつもと違う視点で、小学生では理解できないかも知れないことを書いてみました。いろいろな世界を知ることが、より見える世界が広がる。視野が広がる。そういうことにつながってくればと、願っています。

